

## 第119回銀行業務検定試験「法人融資渉外2級」団体最優秀賞、「財務2級」団体優秀賞受賞

## 滋賀銀行

## “対話力”強化による更なる共存共栄を目指して

今回は、2011年6月5日に実施の第119回銀行業務検定試験「法人融資渉外2級」において団体最優秀賞、「財務2級」において団体優秀賞を受賞されました滋賀銀行へお伺いしました。

滋賀銀行は、昭和8年に百州三銀行と八幡銀行が合併して設立された、滋賀県大津市に本店を置く地方銀行です。数少ない人口増加県である滋賀県を中心に139店舗(平成23年6月末現在)を展開しており、滋賀県内での預金残高シェアおよび貸出金残高シェアはいずれも4割を超えています。

また、CSRを銀行経営の要諦として位置づけ、積極的に環境経営や環境金融に取り組んでおり、平成20年には、環境省より「エコ・ファースト企業」として認定されています。

今回、快く取材に応じてくださいましたのは、人事部・部次長兼研修グループ課長の山崎敦さんです。

## ●団体賞受賞について

最初に、団体最優秀賞・優秀賞を受賞された感想をお聞きしたところ、「非常に光栄なことです」とおっしゃっていました。

滋賀銀行では、事業性融資に強い行員の育成に力を入れており、「法人融資渉外2級」および「財務2級」の試験において、このような好成績につながったことは、とてもうれしいとのことでした。

## ●“はなしあい”制度による自発的受験

銀行業務検定試験の受験・合格を、昇進・昇格への必須要件とされている金融機関が多いなか、滋賀銀行では、試験の受験は行員の任意となっているそうです。それは、検定試験の受験・合格は知識習得の手段であって、目的ではないからということが理由だそうです。一方で、一部の種目では、受験を強制しないものの、報奨金などを出すことによってインセンティブにつなげているとのことでした。

行員が受験する試験種目については、行員一人ひとりと、“はなしあい”によって決められることが多いそうです。

“はなしあい”とは、半期ごとに上司と部下が、①行員一人ひとりの果たすべき役割と目標の明確化、②目標に向かって取り組んだプロセスについて話し合うことです。本人の適性や、今後の進むべき道としてどのような研修を受ければよいか、そのためにどのような勉強をすればよいかといったことを含めて、行員の役割や目標を確認するために制度的に行っているそうです。

この“はなしあい”により行員一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場環境作りに取り組んでいますが、今回、団体賞の受賞につながったのも、強制的に受験させられるのではなく、納得し、自発的に勉強をして受験したことにより、モチベーションが高まり、こうした結果につながったものと考えられます。

## ●経営理念と長期経営計画

滋賀銀行では、「“対話力”強化による更なる共存共栄を目指して」を長期計画の基本ビジョンとして掲げています。

これは、伝統ある近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を受け継いだ行是「自分にきびしく人には親切 社会につくす」という共存共栄の考え方にもとづくものであり、「ネットワークのしがぎん」「アジアに強いしがぎん」「CSRのしがぎん」の3つのブランド戦略が柱となっています。

「ネットワークのしがぎん」は、ビジネスマッチングを中心としたソリューション提案によって顧客を支援すること。「アジアに強いしがぎん」は、アジアビジネスへの顧客を支援すること。そして、環境経営・環境金融への取組みを中心とした「CSRのしがぎん」です。

これらの戦略を進めるにあたっては、きめ細かな顧客との対話のなかで、ソリューション提案ができる人材が必要とされるため、「対話力強化に向けた研修体系」を充実させているそうです。

## ●研修制度について

研修体系は階層別、職務別に対応したものとなっており、「事業性融資に強い行員の育成」「資産運用コンサルティング」「事務系研修」の3つの柱を軸として研修を行っています。

そのうち、どの研修を受けるかについては、“はなしあい”などで決められ、行員のキャリアアップに即した研修を受けることができます。

研修のなかには、一定の知識レベルに達していることが必要とされる研修もあり、こういった部分において、一定の知識を習得するために、銀行業務検定試験などが活用されているそうです。

## ●さまざまな人材育成への取組み

滋賀銀行では、さまざまな人材育成への取組みを行っていますが、女性行員活躍の機会の創出もそのひとつです。

女性の視点から経営に提言を行う「女性活推進委員会」の設置や、新しい時代にふさわしいロールモデルとなる女性管理職を養成する研修などを行っています。

単に制度的に女性を登用するのではなく、「女性も男性と機会は平等」という風土も醸成していこうという考えのもと、融資や審査などの部署にも女性行員を積極的に配属し、活躍の場を広げていこうとしています。

このように男女の区別なく仕事をする風土があると、「能力を伸ばし、責任感を持って永く働きたい」という意識の女性も増加し、組織の活性化にも繋がると考えています」とおっしゃっていました。

## ●今後の展望について

滋賀県は、全国でも数少ない人口増加県であることもあり、今後の経済的発展が見込まれています。このようななかで、滋賀銀行は「引き続き地に足のついた堅実な経営を続けていきます」とのこと。

顧客と対話し、顧客のためになるサービスの提供をすること。それを実践するための人材を育成すること。そして、前述のCSRに取り組むこと、というお話をお伺いし、近江商人の精神である「三方よし」を受け継いだ「行是」を実践されていると強く感じました。

(お忙しい中、取材に真摯にご対応くださいました山崎さんに心から感謝申し上げます)



▲滋賀銀行 本店



▲人事部 山崎 敦 氏